文化財で街おこし

鈴懸クッキー

熊谷女子高校のシンボルが鈴懸の木であることから文化祭は「鈴懸祭」と呼ばれています。調理部員と顧問で鈴懸祭の目玉を作ろうと考え試作してから早いもので30年が経過します。当時は鈴懸の実をイメージして、円形にし、回りにはグラニュー糖をまぶして焼き上げました。材料の配合はクッキーの基本配合パート・シュクレを基本にし、焼き色も工夫し、おいしく仕上がり好評でした。丸く焼き上げるのが難しく、割れたり、くずれたりの試行錯誤を繰り返す中で、歴代の調理部員達は色々と工夫を重ね、現在のリーフ型の鈴懸クッキーとなりました。先輩たちから引き継いだレシピを調理部員たちは大切に継承しながら、小麦の新品種「さとのそら」を使っての試作に取り組んで頂いている。(M)

【熊谷女子高校"鈴懸クッキー"の八木橋即売会】
2月9日(日)8階カトレアホール横
バターの香り豊かなクッキーが焼きあがっています。調理部員達がリーフ型の鈴懸クッキーを焼成し、販売に当たります。皆様のお越しをお待ち申し上げております。

鈴懸の木

熊谷女子高校のシンボルである「鈴懸の木」。正確には、モミジバスズカケノキと称する樹木種としては、スズカケノキ科であり、樹皮等の形状からスズカケノキとアメリカスズカケノキの交配種であると考えられている。昭和四十九年十一月に熊谷市指定文化財の天然記念物に指定された。幹周りとして目通り一、地上一二メートルの位置では、五、〇メートル、樹高約三〇メートルの大木であり、熊谷女子高校の校庭に力強く根付いている。欧米名ではプラタナスとして知られており、日本には原産しない樹木である。

明治時代、日本には、三種類のスズカケノキが移入された記録が残っている。明治十五、十六年には小石川植物園にスズカケノキが、明治二十五年には新宿御苑にモミジバスズカケノキが移入され、その後、苗の生育や植栽を広げ、全国への移植が開始された。この経過を踏まえると、「鈴懸の木」は新宿御苑の母株からの第二世であると考えられ、時期から推察すると開校した明治四十四年前後にこの地に移植された可能性が窺える。熊女は終戦前夜の熊谷空襲により校舎の大半が失われる惨事に見舞われたが、この「鈴懸の木」は焼失せず、現在に至っている。多くの卒業生や在校生を優しい眼差して見下ろしながら、熊女の歴史を過去から未来へと繋ぐ静かな語り部となっている。(Y)

鈴懸の木

はんが甲子園で文部科学大臣賞受賞

二〇一三年三月、佐渡市で開催された第十三回全国高等学校版画選手権大会「はんが甲子園」にて、美術部の生徒が最優秀賞である文部科学大臣賞を受賞した。三日間という限られた時間の中で、下図製作から彫りや着色、版刷りなど幾重もの作業工程を経て完成した版画、その名も「時を越える佐渡」。他を圧倒する出来映えで、緻密な画面構成と温かみのある色刷りが高く評価された。版画という美術表現においては、その下地として重要なのは科学的な知見であると言われている。部員たちが協力し、美の技と科学的な知を融合させ、人々に感動を与える芸術作品へと昇華させたのである。(Y)

「時を越える佐渡」

製作した美術部の部員たち

熊谷女子高校の可能性と共に

スーパーサイエンスハイスクールの取り組み

熊女の躍動感、輝き、可能性。それは埼玉県内でも屈指の進学校として、部活動の全国大会で活躍する有力校として、様々な形や色彩をもって多くの人々の目に映っている。これらに加えて、昨今における熊女の輝きの源となっている試みが、「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」である。熊女は平成二十四年度から文部科学省よりSSHの指定を受けており、科学分野を基礎にした学習を学校での授業や総合学習の機会として取り入れている。また、SSHは熊女のグランドデザインの実現に向けて、大きな意義を有している。

文部科学省の具体的な取り組み方針として、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習、課題研究の推進、創造性豊かな科学技術関係人材の育成を図る指導方法の研究・蓄積、「科学の甲子園」や国際的な科学技術コンテスト等への積極的な参加などが挙げられている。久保校長は、SSHの旗振り役として、意識改革を図り、他の指定校に比べてユニークな取り組みを行っている。例えば、熊女に勤務する教諭に対して、それぞれの研究テーマを掲げてもらい、その研究成果を授業に生かす取り組みを行っている。また大学や研究機関との連携講座や研修の実施や、生徒による研究成果の報告を行うなど、「サイエンスリテラシー」、「論理的思考力」、「自己表現力」を高めることを目的とした取り組みは功を奏し、外部からの評価も高い。平成二十五年度の全国SSH生徒研究発表会では、霜柱についての研究を発表し、生徒投票賞(全国で十校)に選ばれている。

また、近年では大学などへの進学実績の向上もうかがえ、授業科目はもとより、充実した進路指導のための環境づくりも行われている。実践されている様々なプログラムが、熊女の総合力の形成に寄与していることが分かる。

「様々な事業やプログラムの企画や実践と共に、その成果を出すことも大切。生徒一人一人を主人公として積極的な取り組みを進めていきたい」と久保校長は語る。SSHを土台とした熊女の更なる飛躍が続いている。(Y)

JAXAでのサイエンスツアー

秋田でのフィールドワーク

SSH生徒研究発表会でのブース発表

スーパーサイエンスハイスクールとは

文部科学省では、将来の国際的な科学技術人材を育成することを目指し、理数系教育に重点を置いた研究開発を行う「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」事業を平成14年度から実施している。平成25年度までに200校の高校が指定を受けている。埼玉県内では、県立浦和第一女子高校や熊谷高校など8校が指定されている。

熊女の歴史

熊谷女子高校の歴史は、1911年(明治44年)に、前身の埼玉県立熊谷高等女学校が開校したことに始まる。1945年(昭和20年)8月14日夜、空襲により校舎の大半が焼失した。1948年(昭和23年)には、埼玉県立熊谷女子高等学校に改称し、1951(昭和26年)定時制課程を併設、2013年(平成25年)に閉課程となる。2011年(平成23年)には、創立百周年記念式典が挙行された。

SHIORIさんへのインタビュー

フードコーディネーター・料理研究家のSHIORIさんは、1984年生まれ。
熊谷市出身で熊谷女子高校卒。短大卒業後、料理家のアシスタントを経て独立しました。

日向代表理事・以下H 母校熊谷女子高校への想いを聞かせてください。

SHIORIさん・以下S 学校行事が盛んでした。三年生の時に優勝したこともあります。熊女時代に培ったものが本当に大きくて、今、人生を振り返っても熊女で過ごした学生生活が、一番楽しかったと胸を張って言えます。当時得た友だちもかけがえのない存在で、一生ものの友だちです。今でも付き合っています。熊女には「長年語り継がれている魂の言葉」で出る杭は打たれない」というものがあります。がんばっている人を全員で応援しようという、素晴らしい空気が充満していました。

笠原さん・以下K 今のお仕事についたきっかけを教えてください。

S 私が本当に料理に没頭し始めたのは、高校生の時に好きな彼にお弁当を作ってあげたのが始まりです。初めてお弁当をつくったら、その彼が「おいしいおいしい」また、食べたい」と言ってくれて、すごくうれしかったのです。「おいしい」と言ってもらっただけで、かかった手間暇も何もかも吹っ飛んでしまって、楽しくなって、料理することが好きになりました。だから、同世代の人にも、そのサイクルを経験してもらいたい、その「うれしい」を知ってもらいたいというのが私の原点でもあります。

K 「若い女の子にもっと料理を楽しんでほしい」をモットーに、二十歳のときにフードコーディネーターを目指して師匠に弟子入りし、一年八か月で独立しました。「二十二歳のときに念願だった初の料理本」作ってあげたい彼ごはん」を出版しました。これまでにシリーズ累計で三四〇万部までいきました。それ以外の活動は「ファッション誌の連載や、テレビの料理番組への出演、料理教室の講師、あとは企業と商品を開発したりしています。

K 外国の料理学校などにもいくつも通っているそうですね。代官山にアトリエもOPENさせると伺いました。

S この二年、仕事の合間に六か月は外国にいました。料理学校や料理教室にいくつも通いました。自分でも家族が喜ぶ家庭料理だから、作る本人が料理を楽しむことが一番大事なんじゃないか、という事に気づかされました。今は、家庭料理を極めたいと思っています。二〇一四年は、ちょうど三十歳になる年でもあり、今、春代官山にアトリエ(料理スタジオ)をOPENさせます。代官山を拠点に、料理教室やワークショップを通して、料理をコミュニケーションツールとし、みんなで楽しい時間を共有したい、その一歩として新事業を立ち上げることにしました。和食が無形文化遺産に登録された今、和食への回帰が進んでいます。一方で、肝心の和食の将来を担う、若い女の子たちが、日本の文化を海外へ、という プロジェクトが多いですが、同時に日本の若い女の子もきちんと和食を作れるよう、学べる機会があるといいなと思いました。

H くまがや小麦の会では、熊谷産小麦の地産地消を通じた地域振興を行っています。

「熊谷の力」事業では、熊谷市内の高校とのコラボで、新品種の熊谷産小麦(さとのそら)の消費拡大に向けた取り組みを実施していく予定です。SHIORIさんとも、何か製品開発などができるとよいですね。

S そうですね。くまがや小麦の会のみなさんとのコラボで、熊谷産小麦を使ったレシピなども考えてみたいですね。

K 彼ごはん」シリーズが爆発的にヒットするなど、目覚ましいご活躍ですね。

S 「若い女の子にもっと料理を楽しんでほしい」をモットーに、二十歳のときにフードコーディネーターを目指して師匠に弟子入りし、一年八か月で独立しました。「二十二歳のときに念願だった初の料理本」作ってあげたい彼ごはん」を出版しました。これまでにシリーズ累計で三四〇万部までいきました。それ以外の活動は「ファッション誌の連載や、テレビの料理番組への出演、料理教室の講師、あとは企業と商品を開発したりしています。

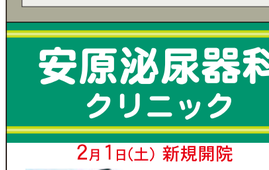
K 外国の料理学校などにもいくつも通っているそうですね。代官山にアトリエもOPENさせると伺いました。

S この二年、仕事の合間に六か月は外国にいました。料理学校や料理教室にいくつも通いました。自分でも家族が喜ぶ家庭料理だから、作る本人が料理を楽しむことが一番大事なんじゃないか、という事に気づかされました。今は、家庭料理を極めたいと思っています。二〇一四年は、ちょうど三十歳になる年でもあり、今、春代官山にアトリエ(料理スタジオ)をOPENさせます。代官山を拠点に、料理教室やワークショップを通して、料理をコミュニケーションツールとし、みんなで楽しい時間を共有したい、その一歩として新事業を立ち上げることにしました。和食が無形文化遺産に登録された今、和食への回帰が進んでいます。一方で、肝心の和食の将来を担う、若い女の子たちが、日本の文化を海外へ、という プロジェクトが多いですが、同時に日本の若い女の子もきちんと和食を作れるよう、学べる機会があるといいなと思いました。

H くまがや小麦の会では、熊谷産小麦の地産地消を通じた地域振興を行っています。

「熊谷の力」事業では、熊谷市内の高校とのコラボで、新品種の熊谷産小麦(さとのそら)の消費拡大に向けた取り組みを実施していく予定です。SHIORIさんとも、何か製品開発などができるとよいですね。

S そうですね。くまがやの小麦の会のみなさんとのコラボで、熊谷産小麦を使ったレシピなども考えてみたいですね。



きがよく見えるようにと、スパレスにおいて、モリモリコンサートを開催いたしました。ピアニストの森田義史さんと私がコラボレーションしてのコンサートでした。森田と森田でモリモリ。二人の森田が力を合わせて地元を盛り上げ、また、それぞれの応援者の方が一緒になって、その輪を広げていただく、という形ができればいいなと思い、企画しました。

当日は、まず私から活動報告などをお話しさせていただき、その後にコーピーブレイクをはさんで、義史さんの演奏に移りました。曲の合間には、イタリアでの生活の様子の話などを盛り込んでいただきました。また、手の動きがよく見えるようにと、スクリーンに手元の映像を流しました。来場者の皆様から「良かったよ」とのお声をたくさん、いただくことができました。ご来場いただいた皆様、どうもありがとうございました! 森田 俊和

北部地域まちづくりNPO等交流会

「北部地域まちづくりNPO等交流会」に小麦の会が参加しました。

小布施町長 市村良三氏

講師 小布施町長 市村良三氏
演題 協働と交流のまちづくり
日時 十一月三十日
主催 埼玉県北部地域振興センター
会場 立正大学熊谷キャンパス
事例発表
NPO法人くまがや小麦の会
会長・日向美津江
NPO法人地域環境緑創造交流協会
副理事長・富田重直氏

講演会は北部地域振興センターの遠藤所長に開会のご挨拶を頂き、石川副所長の司会で開催された。

基調講演をされた市村町長さんの小布施のまちづくりに注がれた熱い思いと培われた人材ネットは正確な組織作りに組み入れられた。二〇年に渡る地元を楽しくする事だけを揺るがない基盤に据えられた、町長の潔い取り組みに、二〇〇名の聴衆は感動した。小布施町の人口は一二、〇〇〇人、観光客は、年間一二〇万人が訪れる、改めてリーダーの舵取りがまちづくりの原動力になる事を感じ、講演を聞く事が出来、心から嬉しく思った。事例発表は埼玉県北部地域振興センターにプロデュースして頂いた。深谷市は地域の桑畑保全の為に桑茶を商品化した。これを熊谷市の当会が熊谷産小麦を使用したサブレに練り込み、くわっ葉サブレ」を共同開発した。桑の葉は栄養豊富、カルシウムは牛乳の二十四倍、鉄分は納豆の十五倍含まれる。

市の枠を超えNPOが新商品を開発することができた。続いて会場を隣の食堂に移し立正大学ボランティアセンターの学生さんを交え、御参加の皆様が市村小布施町長を囲み交換会が開催された。「桑茶」の試飲、「くわっ葉サブレ」の試食、即売会も設営され、和やかな雰囲気に溢れていた。(H)

プロフィール
S48 慶應義塾大学法学部卒業
同年 ㈱三菱銀行入社
S55 小布施町役場入社
S57 町並み整備事業開始
H6 (建築家宮本忠長氏を要請)
H15 ㈱アート小布施 設立
H17 国土交通省「観光カリスマ」選定
小布施町 町長就任

NHKあさイチ 10月24日熊谷特集に小麦の会出演

NHK総合テレビ 毎週(月)~(金)朝八時十五分から九時五十四分ノッチ!が試食して下さった。特にイノッチさんのうまい!もう一つ」の番組制作は担当したディレクターが企画、調査、取材、編集まで総て行う贅沢な番組作りを行っている。九月末に小麦の会のHPをご覧になって尋ねて来られた。麦翁 権田愛三さんの生家の取材にも同行したり、縄跳びの鈴木さんのギネスタック挑戦の生番組に当会賛助会員の西山先生をご紹介したり、NHKの取材協力は新しい経験でした。当会の取材は十月十一日に平松研究室で行われた熊谷工業高校のブルーベリーバウンドの製造でした。あさイチ埼玉局の内藤裕子アナウンサーは本当に美しく、気さくな方でした。二十四日のNHKスタジオの生放送では小麦の会のバウンドケーキを有働由美子アナウンサー、俳優の渡辺徹さん、V6の井ノ原快彦さんが試食して下さった。特にイノッチさんのうまい!もう一つ」が試食して下さった。特にイノッチさんのうまい!もう一つ」の番組制作は担当したディレクターが企画、調査、取材、編集まで総て行う贅沢な番組作りを行っている。九月末に小麦の会のHPをご覧になって尋ねて来られた。麦翁 権田愛三さんの生家の取材にも同行したり、縄跳びの鈴木さんのギネスタック挑戦の生番組に当会賛助会員の西山先生をご紹介したり、NHKの取材協力は新しい経験でした。当会の取材は十月十一日に平松研究室で行われた熊谷工業高校のブルーベリーバウンドの製造でした。あさイチ埼玉局の内藤裕子アナウンサーは本当に美しく、気さくな方でした。二十四日のNHKスタジオの生放送では小麦の会のバウンドケーキを有働

市民協働「熊谷の力」さとのそら消費拡大事業

熊谷市が募集する、熊谷市役所の農業振興課と商業観光課とパートナーとして選び、企画、実行を相談しながら行ってゆく事業です。平成二十六年から熊谷産小麦の作付け開始が、農林六十二号からさとのそらに変更されると、そこで、さとのそら消費拡大を目論み、製品開発を行い、高校生の自校製品開発にも協力する。この企画で一次選考、二次のプレゼンテーションを通過して、採択された。実施期間は平成二十六年四月一日~平成二十七年三月三十一日。

熊谷商業高校の灼熱のあつめえカレーパン
熊谷工業高校のブルーベリーバウンド
熊谷女子高校の鈴懸クッキー
熊谷高校の赤鳳サブレが計画中
熊谷農業高校、熊谷西高校、妻沼高校、熊谷特別支援校にも共同開発を持ちかけていく、実社会で活動する市民団体と高校生の協働により熊谷市活性化の新局面を見出してゆきたい。(H)

安原泌尿器科クリニック
2月1日(土) 新規開院
熊谷市中央2-258-1
(さいたま博通り沿い)
☎(048)520-2110
http://www.yasuhara.clinic.com/

診療時間(予約制)	月	火	水	木	金	土	日・祝
9:00~12:00	●	●	／	●	●	●	／
15:00~18:00	●	●	／	●	●	●	／

吉田・櫻井税理士法人
税理士 吉田 嘉高
税理士 吉田 貴之 税理士 櫻井 富美子
〒360-0014 熊谷市箱田2-2-8
TEL 048-521-0334 FAX 048-521-4506

【時代はリサイクル】の精神で、更なるリサイクルに挑戦し続ける
リサイクルの亀井産業グループ
環境問題への対策として092t出を削減するために、
太陽光発電 始めました。
【大内沢太陽光発電所 メガソーラー発電中】
【発電容量 1,491kW】
亀井産業株式会社
埼玉県熊谷市三ヶ尻4236番地 TEL048-532-3391 FAX048-532-5235
東秩父事業所・秩父事業所・深谷支店
熊谷カーボン
埼玉県深谷市長在家2483 TEL048-531-4383
熊谷カーボン ソーラーも発電中 18.24kW

"あなたのブレーン"
前嶋修身税理士事務所
私たちは皆様のブレーン、そして皆様の事業のサポーターになることを目指しています。
TEL.048-526-0811
FAX.048-524-8522
〒360-0018 埼玉県熊谷市中央1-218
http://www.kaikei-home.com/maejima/

かばやき 廣川
■営業時間
11:00~13:30
16:30~20:00
日曜休業
熊谷市弥生2丁目25
電話:048-521-0338
市役所 17号 星川通 熊谷駅

東京ガス㈱ TOMOS 企業会員
ISO9001
ISO14001 認証取得
石井建設株式会社
■本 社:熊谷市銀座7-12
TEL.048(522)5831
■工事部:熊谷市戸出497-1
TEL.048(523)9079

株式会社 平松
代表取締役 日向研一朗
歴史が育む無限の可能性…地域密着・食品卸売業
原材料食品は包材まで御用命下さい
We are HIRAMATSU
〒360-0801 埼玉県熊谷市中奈良1797-1
TEL:048-521-0026
●ビッグベアショッピングモール(埼玉県熊谷市代1067)
・西友・トイザらス・スポーツオーソリティ・ブルームーン・ラフェ・大黒軒
●平松運輸株式会社(埼玉県熊谷市中奈良1797-1)

「彼ごはんDAYS」宝島社刊
大好評発売中です!